

千葉県特別支援学校
清掃検定マニュアル
第2版



千葉県特別支援学校長会
千葉県特別支援学校副校長・教頭会

編

目次

	ページ
● 『清掃検定マニュアル第2版』作成の基本的な考え方	2
1 清掃の進め方の原則	2
2 清掃資機材の特徴と主な用途	
タオル, バケツ, 自在ぼうき, ちり取り, 毛がき	3
スクイジー, プレーンモップ, ダストクロスモップ, モップ	4
3 清掃資機材の使い方	
(1) タオルの使い方	5
(2) 自在ぼうきの使い方	7
(3) スクイジーの使い方	9
4 校内清掃検定評価表	
(1) 机拭き校内検定評価表	11
(2) 自在ぼうき校内検定評価表	12
(3) スクイジー校内検定評価表	13
5 県清掃検定評価表(案)	14
6 【参考】平成25年度千葉県特別支援学校 県清掃検定課題	15
7 清掃作業する人のマナー	17
● 清掃を行う上で参考となる本	18

- 前回のマニュアル(平成25年3月末発行)と変えた点に下線を引きました。変更点は二重下線, 追加点は一重下線です。
- 本書はあくまでも清掃の標準的な手順をまとめたものです。担当している幼児児童生徒の様子や清掃場所の状態に応じてご活用下さい。

● 『清掃検定マニュアル第2版』作成の基本的な考え方

- 県内の幼児児童生徒が行える、基本的な清掃手順を載せる。
(清掃の手順が書かれた教本を参考に共通部分を抽出して作成)
- 障害者技能競技大会、国家資格(ビルクリーニング技能士)の清掃手順に準じる。
(それらの手順を精選し、規定されていない手順・注意点はできる限り加えない)
- 清掃手順を載せる基準は、合理的な作業であること。
つまり、①作業が安全に行えて疲労が少ない。
②立派な物(仕事)ができる。
③より多くの作業ができる。
- 細かすぎる手順書は使いづらいと思われる。
なぜなら、①清掃の方法はたくさんある(職場ごとに清掃の方法は異なる)。
②正しい、ただ一通りの清掃方法は「ない」。
(タオルの横絞り、自在ぼうきの逆手掃きをする清掃職は多数いる)
③体の使い方・用具の動かし方を細かく規定すると、やり直す場面が増えて、幼児児童生徒の意欲が低下する。

★清掃の技能を身につける練習は、自動車教習所内の運転練習に似ています。
技能習得の練習を繰り返すよりも、いろいろな場所を清掃することですがすがしさを
味わい、清掃が好きな幼児児童生徒を増やしていきましょう。

1 清掃の進め方の原則

(1) 上から下に向かって行う

- 上の階から下の階へと清掃を行えば、清掃済みの階を汚さず、資機材の運搬や移動も効率的。
- 階段や窓ガラスなど個別の清掃も同じ。

(2) 奥から入口に向かって行う

- 作業済みの箇所を汚さないため。

(3) 端から真ん中に向かって行う

- 端はほこりがたまりやすく、器具を操作しにくいので、先に行っておく。
- 先に行っておけば、やり残しがなく、作業の能率も上がる。

(4) 狭い場所から広い場所に向かって行う

- 理由は(3)と同じ。
(例：事務室で、机の下の狭いところのごみを、先に広い中央部に掃き出す。)

2 清掃資機材の特徴と主な用途

名称	特徴と主な用途	関連知識
<p>タオル</p> 	<p>水拭き・から拭きなど清掃に欠かせない。八つ折りにして使うことが多い。タオルを使う利点は、①多くの面を使える②洗いやすい③乾きやすい。汚れた面で拭くときれいな所まで汚してしまうため、折り返してきれいな面を使うようにする。トイレと洗面台など使用する部位により色分けする。</p>	<p>使用後は、よく洗い、広げて乾燥させる。乾いたら、一枚ずつたんで重ねて保管する。</p>
<p>バケツ</p> 	<p>タオルやモップをすすぐ時や、洗剤の希釈液を作る時などに使われ、その用途が広い。容量は10～15リットルが一般的。</p>	<p>使用後は、よく洗い、水分を取り除いて保管する。</p>
<p>自在ぼうき</p> 	<p>4～5 cmの長さの毛を植えたぼうきで、毛を植えた部分と柄との接合部が自由に動くようになっている。室内清掃で多用されている。屋外用には不向きで、屋内でも凹凸の多いところには不向きである。毛先幅30 cmのものは主に階段用に、45 cmのものはフロア用に使われている。</p>	<p>綿ぼこりなどがつきやすいので、毛がきでこまめに掃除することが必要。保管する場合は、つり下げておくか、毛先を上に向けておく。</p>
<p>ちり取り</p>  <p>左から順に、片手ちり取り、三つ手ちり取り、文化ちり取り</p>	<p>片手ちり取りは、ぼうきで掃きながら片手でごみ処理するのに便利である。三つ手ちり取りは、建物内外のちり取りとして広く利用されている。文化ちり取りは、室内用として使われるほか、ごみがこぼれないので、拾い掃き用としても使われている。</p>	<p>使用後は、流水で洗い、水分を取り除いて保管する。</p>
<p>毛がき</p> 	<p>自在ぼうきなどの毛先からみついた綿ぼこりや糸くずを取り除くのに使われる。毛がきの代用として、ワイヤーブラシや粗めのくしを用いる場合もある。</p>	<p>使用後は、ほこりなどを取り除き、つり下げるか、目につきやすい場所に保管する。</p>

<p>スクイジー</p> 	<p>窓ガラスの清掃に使用する。ガラス面をタオルなどで適当にぬらし、水を一気に引く。ゴム幅が通常30～50cmまでの数種類があり、作業箇所に応じて使用されている。ゴム刃が劣化したら、ゴム刃だけ交換できる。</p>	<p>使用後は、流水で洗い、水を取り除き、ゴム刃を上にして保管する。</p>
<p>乾式モップ (プレーンモップ)</p> 	<p>乾いたモップで、床などのほこりを拭き取るのに用いる。楕円形の頭部が平らなのでプレーンモップと呼ばれ、体育館などの広い場所の除塵ができる。ぬれた床、湿っている床の清掃には適さない。</p>	<p>使用後は、ほこりを払い落とし保管する。汚れたら洗濯し、よく乾いた房糸に不乾性の鉱油を噴霧し、一晩置いてから使用する。</p>
<p>乾式モップ (ダストクロスモップ)</p> 	<p>不織布などを用いて、繊維間にほこりを付着させて除去する仕組みである。ぬれた床や砂などの多い床の清掃には適さない。最近は使い捨てでなく、コスト・ゴミ削減などから布製で洗って利用できるものもある。</p>	<p>ダストクロスについたほこりを、手でなでるように落としたり、掃除機で吸い取ったりして再利用する。ヘッドのスポンジ面を上にして保管する。</p>
<p>モップ</p> 	<p>床の拭き掃除や洗剤・ワックスの塗布に用いる。</p>	<p>使用後はよく洗い、つるすか、ラークを上にして乾燥させる。洗った後、糸が交差しないように手ぐしする。</p>

※県検定の資機材は、本書16ページをご覧ください。

3 清掃資機材の使い方

(1) タオルの使い方 使用資機材：タオル（雑巾）、バケツ、長机（学習机）、水

1 準備

- (1)バケツに水を3分の1から半分ほど入れる→こぼしにくくする。
- (2)タオルを持ち、バケツの前に片膝を立てて座る。長袖を着ていたら、袖をまくる。



2 絞る

- (1)タオルを水に浸す。タオルを水から上げ、二つ折りの位置を両手で持つ。
- (2)さらに二つ折りにする。
- (3)短い棒状にしたタオルを、両手のひらに乗せて下から握る（バットの握り方と同じ）。
- (4)両手で内側に絞り込む（バケツの中で絞ると、バケツのまわりをぬらさない）。絞ってもタオルから水がたれなくなるまで、固く絞る。
- (5)バケツの外に水滴をたらしさないよう、バケツの上で手についた水をタオルで拭く。



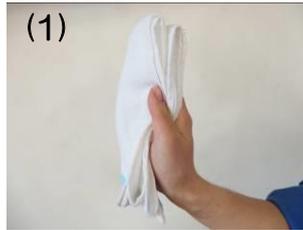
3 たたむ（八つ折り）

- (1)タオルを広げ、両端を揃えて長い辺を折る（二つ折り）。
 - (2)長い辺の両端を両手で持つ。
 - (3)さらに長い辺を半分に折る（四つ折り）。
 - (4)さらに長い辺を半分に折る（八つ折り）。
- 〔わかりやすくするため、タオルの端を青く塗ってあります。〕



4 持つ

- (1)ハつ折りにしたタオルの折り目のない辺（バラバラの部分）を、親指と人差し指ではさむ→めくれることを防ぐ。
- (2)親指と他の4本の指ではさんで持つ。



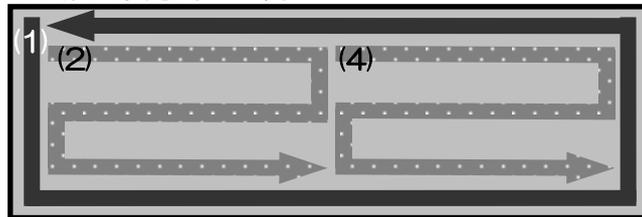
5 拭く（長机を拭く） 左半分から始める場合の例（右半分から始めてもよい）

- (1)机の左上隅からスタートし、机の周りを一周する。※
- (2)一周した中の左半分を、奥から手前に向かって、3cm程度重なるよう、コの字型に拭く。
- (3)作業途中でタオルの汚れを確認する。汚れていたら、その面が内側になるように折り返す。→汚れた面に手を当てると手が汚れ、新しい面も汚れる。
- (4)中央に拭き残しが無いよう、右半分も同じ手順で拭く。
- (5)仕上がり点を点検する。汚れが残っている箇所や拭き残しを拭く。

※拭き残しなく拭けることを評価する。

長机を右半分から拭き始めたり、スタート位置が例と異なっていたり、周りを時計回りに拭いたりしてもよい。

●長机の拭き方の一例



6 洗う

- (1)タオルを持ち、バケツの前に片膝を立てて座る。
- (2)バケツの中でタオルを広げ、汚れている所を両手でこすり合わせ、水がたれなくなるまで固く絞る。バケツの水が汚れたら、水を替える。



7 片付け

- (1)バケツの周りにこぼれた水滴を拭き取る。
- (2)タオルをタオル掛けに干し、両端を揃えてひっぱって、しわを伸ばす。
- (3)バケツは洗って、水分を拭き取る。



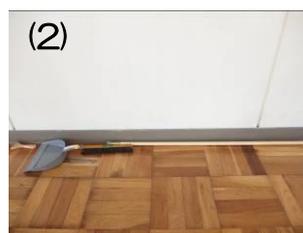
- タオルを使う利点：①多くの面を使える ②洗やすい ③乾きやすい

(2) 自在ぼうきの使い方

使用資機材：自在ぼうき，ちり取り，毛がき

1 準備

- (1) 運ぶとき→人や物に当たらないよう，柄をまっすぐに立てて身体に寄せて持つ。
- (2) 置くとき→ほうき・ちり取り・毛がきを通行の妨げにならない場所に床に寝かせる。



2 持つ

- (1) ほうきの柄の先端に片手の親指をのせて握り，もう一方の手は柄の先端より30~40cmほど下を，親指が上になる向きで握る。
- (2) 両足は肩幅ぐらいに広げて，背筋を伸ばして立つ。



3 掃く

【押さえ掃き】

- (1) 身体の前を横方向に動かし，前進しながら掃く。ゴミを取り残さないよう，前の掃き跡に少し重ねて掃いていく。
- (2) ときどき毛先を床に軽くたたいて，毛先についたゴミやほこりを落とす。
- (3) ほこりを舞い上げないように，ほうきの毛先を床から離さず，軽く押さえるように掃く（押さえ掃き）。
- (4) 一回の掃き幅はおよそ120~150cm（柄を握っている下の手を伸ばしたところから掃き始め，両足の前を過ぎたところで掃き終える）。
- (5) ほうきを壁や机にぶついたり，毛先を床に強く押しついたりしない。



4 ゴミを取る

- (1) 掃き寄せたゴミは適宜一カ所に集めて，ちり取りで取る。
- (2) ほうきの柄の下の方を親指が下になる向きで握る。

- (3) ほうきの毛先幅の半分程度を
ちり取りの中に入れるようし
て掃き込む。
- (4) ゴミを取り残さないよう、ち
り取りを2~3回後ろにずら
しながら取る。



5 廊下を掃く

- (1) 出入口の右側から掃き始め、
壁際のゴミを中央に寄せる。
- (2) 壁際の掃き方：ほうきを幅木
に当てないよう、ほうきの頭
部を幅木に対して斜めにして
幅木に沿って掃き、次に身体
の前を横方向に掃く（L字型
に掃く）。
- (3) 区画の端まで進んだら、身体
を90度回転させて次の列の
足場を掃く。その後、進む方
向に身体を90度回転させ、
前進して掃く。
- (4) 中央に集めたゴミを出入口に
向けて掃きちり取りで取る。
- (5) 掃き終えた区画を点検する。
掃き残しがあれば掃き取る。
- (6) 作業後、毛先のゴミやほこり
を毛がきで取る。

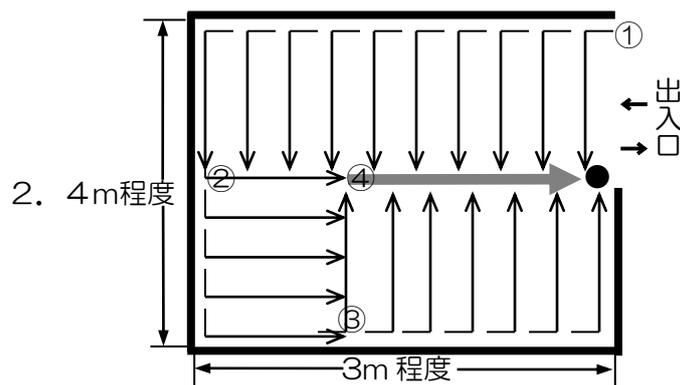


6 保管

- (1) 自在ほうきを保管する際、つ
るすか、毛先を上にして立て
るようにする。毛先を下にし
て立てかけると、毛先に変な
くせがつく。



● 廊下の掃き方の一例



← 掃く方向

● ゴミを集める位置

- ・ 県検定の作業場所は、奥行3m×幅2.4mの長方形とし、幅木により区画します。
- ・ 校内検定は、廊下に角材を置くなどして、同程度の広さの作業場所で行ってください。

(3) スクイジーの使い方

使用資機材：スクイジー、タオル2枚、バケツ、水

1 準備

P.5 『タオルの使い方』 1～3参照

- (1) スクイジーはゴム刃を上にして置く。 →刃を傷めないよう
- (2) バケツに水を3分の1から半分ほど入れる。
- (3) タオル 1 枚を水にぬらし、ゆるめに絞る。
- (4) 絞ったタオルを八つ折りにする。

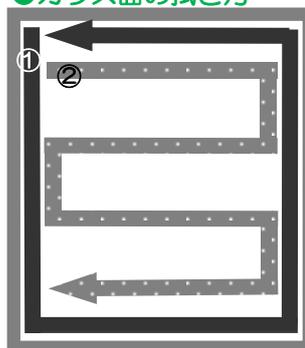


2 ガラス面を拭く

P.6 『タオルの使い方』 4～5参照

- (1) タオルの折り目のない辺を、親指と人差し指ではさんで持つ。
- (2) ガラスの枠側を 1 周拭く（四隅は指先を使い押し込む）。中央部をむらのないようにコの字型に拭く。作業途中でタオルの汚れを確認する。汚れていたら、その面が内側になるように折り返し、新しい面を出す。

●ガラス面の拭き方



※拭き残しなく拭ければ、拭き始めが左図と異なっても、周りを時計回りに拭いてもよい。

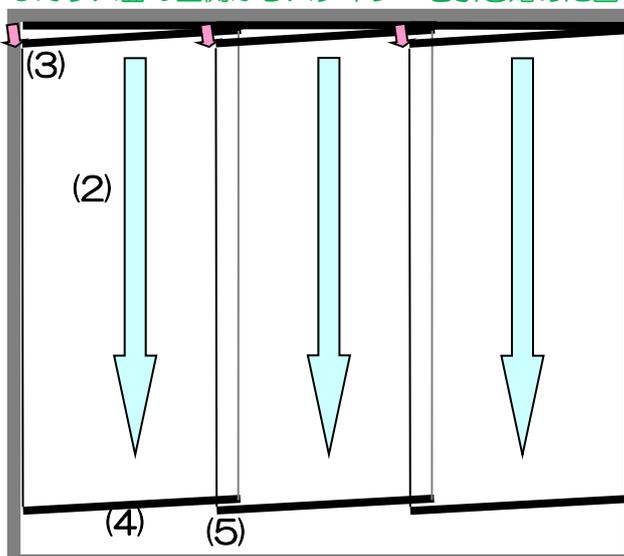
3 スクイジーを使う

【縦引き作業】

- (1) 絞ったタオルを一方の手に、スクイジーを他方の手に持つ。
- (2) 上部から下部へスクイジーを縦に引き下ろす。（左右どちらから引いてもよい）
- (3) 作業の終わった側のゴム刃を3 cm程度下に傾け先行させ、汚水を広げないように引く。
- (4) 下枠までスクイジーを引き下ろさず、10～20 cm程度余らせて止める。
- (5) 引き残しがないように、前の引き跡に5 cm程度重なるように引く。



●ガラス面の左側からスクイジーを引き始めた図



(6) スクイジーを引くとき、ゴム刃の角度を一定に保ち、軽く押しつけるようにして一気に引く。ゴム刃の角度を変えないため、膝を曲げて身体全体で引き下ろす。



(7) スクイジーを引くたび、ゴム刃をタオルで拭く→汚水をガラスにつけないため。

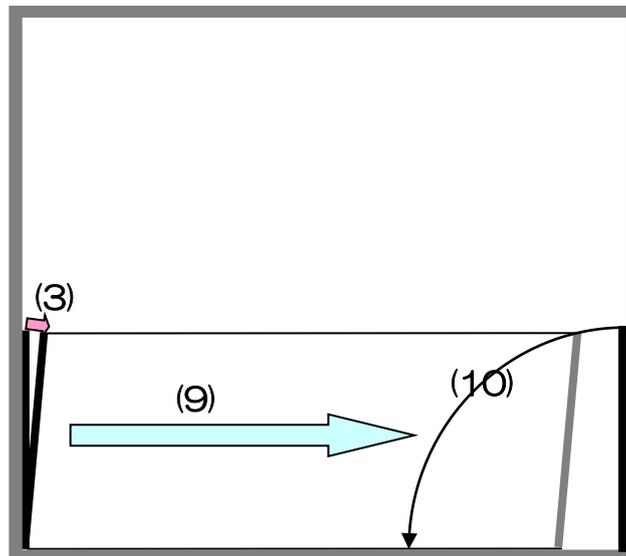
(8) (2)～(7)の作業を全面にわたり繰り返す。

(9) ガラス面の下の部分を、縦枠まで10cm程度残したところまで、水分を落とさないようタオルを真下にあてながら、スクイジーを横に引く。

(10) コーナーは、タオルを真下にあてながら、スクイジーを扇形に引き下ろして仕上げる。力を入れすぎると、水切り操作がしにくい。

(11) タオルの汚れた面が内側になるように折り返して新しい面を出し、バケツの縁にかける。

●ガラス面下部のスクイジーの引き方



4 から拭き・点検・補修

(1) 乾いたタオルでガラス面の縁をから拭きする。タオルを指先にあてがい、四隅は奥まで拭く。



(2) ガラス面を斜めなどから見て、仕上がりを点検する。



(3) 補修の必要がある箇所を乾いたタオルで拭き直す。

5 片付け・手入れ

(1) バケツ周りや床がぬれていたら、ぬれタオルで拭く。

(2) スクイジーはゴム部分を水洗いして乾いたタオルで拭き、ゴム刃を上にして保管する。

4 校内清掃検定評価表

(1) 机拭き校内検定評価表

- ・使用資機材 **1～5級** タオル、バケツ、長机（180cm×60cm程度）、水
6～10級 雑巾、バケツ、学習机、水

作業順序	1～5級	評価	6～10級	評価
準備	<ul style="list-style-type: none"> バケツに水を3分の1から半分ほど入れたか。 タオルを持ち、バケツの前に<u>片膝を立てて座ったか。</u> <u>長袖を着ていたら、袖をまくったか。</u> 		バケツに水を入れ、こぼさず運んだか。	
絞る	<ul style="list-style-type: none"> 水に浸したタオルを縦に四つに折り、バットの握り方で、<u>絞ってもタオルから水がたれなくなるまで固く絞ったか。</u> バケツの外に水滴をたらさないよう、バケツの上で身についた水をタオルで拭いたか。 		水がたれない程度に絞ったか。	
たたむ	<ul style="list-style-type: none"> タオルを八つ折りにしたか。 		雑巾を二つ折りして、広げて持ったか。	
持つ	<ul style="list-style-type: none"> 八つ折りしたタオルの折り目のない辺を親指と人差し指ではさみ、タオルを親指と他の4本の指ではさんで持ったか。 			
拭く	<p>長机を拭く 【例】<u>左半分から始める場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 机の左上隅からスタートし、<u>机の周りを一周したか。</u>※（本ページの下部参照） 一周した中の左半部分を奥から手前に向かって、3cm程度重なるよう、コの字型に拭いたか。 <u>タオルの汚れた面を内側に折り返したか。</u> 中央に拭き残しがないよう、右半分も同じ手順で拭いたか。 <u>仕上がり点を点検し、汚れが残っている箇所や拭き残しを拭いたか。</u> 		学習机を拭き残しなく拭いたか。	
洗う	<ul style="list-style-type: none"> タオルを持ち、バケツの前に<u>片膝を立てて座ったか。</u> バケツの中でタオルを広げ、汚れている所を両手でこすり合わせ、<u>水がたれなくなるまで固く絞ったか。</u> 		両手でこすり合わせて洗い、 <u>しわを伸ばして干したか。</u>	
片付け	<ul style="list-style-type: none"> <u>バケツの周りにこぼれた水滴を拭き取ったか。</u> <u>タオルをタオル掛けに干し、両端を揃えてひっぱって、しわを伸ばしたか。</u> 			

●評価基準…評価欄についた○の数で級を決める。

1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級
10個	9個	8個	7個	6個	5個	4個	3個	2個	1個

※拭き残しなく拭けたことを評価する。（長机を右半分から拭き始めたり、スタート位置が例と異なっていたり、周りを時計回りに拭いたりしてもよい。本書6ページ参照。）

(2) 自在ぼうき校内検定評価表

使用資機材：自在ぼうき，ちり取り，毛がき

作業順序	1～5級	評価	6～10級	評価
準備	<ul style="list-style-type: none"> • ほうきの柄を立て<u>身体に寄せて持ち運んだか。</u> • ほうき・ちり取り・毛がきを<u>通行の妨げにならない場所に</u>、床に寝かせて置いたか。 		ほうきを <u>身体に寄せて運んだか。</u>	
持つ	<ul style="list-style-type: none"> • ほうきの柄の先端に片手の親指をのせて握り、もう一方の手は柄の先端より30～40cmほど下を、<u>親指が上になる向きで握ったか。</u> • 両足は肩幅ぐらいに広げて、背筋を伸ばして立ったか。 		<u>背筋を伸ばしてほうきを持ったか。</u>	
掃く	<ul style="list-style-type: none"> • ほうきは身体の前を横方向に動かし、前進しながら、<u>前の掃き跡に少し重ねて掃いたか。</u> • <u>ときどき毛先を床に軽くたたいて</u>、ゴミやほこりを落としか。 		ほうきの毛先を床から離さず、軽く押さえるようにして掃いたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> • ほうきの毛先を床から離さず、軽く押さえるように掃いたか。 			
	<ul style="list-style-type: none"> • 一回の掃き幅はおよそ120～150cmか。 (<u>柄を握っている下の手を伸ばしたところから掃き始め、両足の前を過ぎたところで掃き終えたか。</u>) 			
	<ul style="list-style-type: none"> • ほうきを壁や机にぶつかけたり、毛先を床に強く押しつけたりしていないか。 			
<u>廊下を掃く</u>	<ul style="list-style-type: none"> • 8ページの図のように順番に掃いたか。(出入口の右側から掃き始め、壁際のゴミを中央に寄せる。<u>壁際の掃き方：ほうきを幅木に当てないよう、ほうきの頭部を幅木に対して斜めにして幅木に沿って掃き、次に身体の前を横方向に掃く。区画の端まで進んだら、身体を90度回転させて次の列の足場を掃く。その後、進む方向に身体を90度回転させ、前進して掃く。</u>) • 中央に集めたゴミを出入口に向けて掃き、ちり取りで取ったか。(ほうきの柄の下の方を親指が下になる向きで握り、ほうきの毛先幅の半分程度をちり取りの中に入れるようにして掃き込む。ゴミを取り残さないよう、ちり取りを2～3回後ろにずらしながら取る。) 		端から順番に掃いたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> • <u>掃き終えた区画を点検したか。掃き残しがあれば、掃き取ったか。</u> 			
	<ul style="list-style-type: none"> • 作業後、毛先のゴミなどを毛がきで取ったか。 			

●評価基準…評価欄についた○の数で級を決める。

1級	2級	3級	4級	5級
10個	9個	8個	7個	6個

6級	7級	8級	9級	10級
5個	4個	3個	2個	1個

※校内検定は、本書15～16ページを参考に、各校の状況に合わせた形で行って下さい。

(3) スクイジー校内検定評価表 使用資機材：スクイジー、タオル2枚、バケツ、水

作業順序	1～5級	評価	6～10級	評価
準備	<ul style="list-style-type: none"> スクイジーはゴム刃を上にして置いたか。 バケツに水を3分の1から半分ほど入れ、タオル1枚をゆるめに絞ったか。 絞ったタオルを八つ折りにしたか。 		タオル1枚をゆるめに絞り、八つ折りしたか。	
ガラス面を拭く	<ul style="list-style-type: none"> タオルの折り目のない辺を、親指と人差し指ではさんで持ったか。 ガラスの枠側を1周拭いたか（四隅は指先を使い押し込む）。中央部をむらのないようにコの字型に拭いたか。タオルの汚れた面を内側になるように折り返し、新しい面を出したか。 		ぬれタオルでガラス全面を拭いたか。	
スクイジーを使う	<ul style="list-style-type: none"> 絞ったタオルとスクイジーを持ち、上から下へスクイジーを縦に引き下ろし、下枠までスクイジーを引き下ろさず、<u>10～20cm程度余らせて止めたか（左右どちらから引いてもよい）</u> <u>作業の終わった側のゴム刃を3cm程度下に傾け先行させたか。</u> <u>前の引き跡に5cm程重なるように引いたか。</u> <u>スクイジーを引くとき、ゴム刃の角度を一定に保って一気に引いたか。膝を曲げて身体全体で引き下ろしたか。</u> スクイジーを引くたびゴム刃をタオルで拭いたか。上記の作業を全面にわたり繰り返したか。 ガラス面の下の部分を、<u>縦枠まで10cm程度残したところまで、水分を落とさないようタオルを真下にあてながら、スクイジーを横に引いたか。コーナーは、タオルを真下にあてながら、スクイジーを扇形に引き下ろして仕上げたか。タオルの汚れた面が内側になるように折り返し新しい面を出し、バケツの縁にかけたか。</u> 		スクイジーでガラス全面を引いたか（ガラス面に水滴が残っていてもよい）。	
から拭き点検補修	<ul style="list-style-type: none"> 乾いたタオルでガラスの縁をから拭きしたか。（タオルを指先にあてがい四隅は奥まで拭く） ガラス面を斜めなどから見て、仕上がり了点検したか。補修の必要がある箇所を乾いたタオルで拭き直したか。 		ガラス面に残った水滴を拭いたか（仕上がりは問わず）	
片付け	<ul style="list-style-type: none"> <u>バケツの周りや床がぬれていたら、ぬれタオルで拭いたか。</u> 		<u>ぬれた床をぬれタオルで拭いたか</u>	

●評価基準…評価欄についた○の数で級を決める。

1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級
10個	9個	8個	7個	6個	5個	4個	3個	2個	1個

5 県清掃検定評価表（案） （障害者技能競技大会に準じています）

作業順序	作業方法	評価
資機材の準備	<ul style="list-style-type: none"> 作業に必要な資機材はすでに会場に準備されている。 <u>（資機材および数量は別紙資機材一覧表を参照のこと）</u> 資機材の点検終了後、係員の指示に従い、所定の位置に立つ。 	
検定開始の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 審査員の始めの合図で、挨拶を行って、検定を開始する。 開始の挨拶→「<u>（学校名）の（氏名）です。始めます。</u>」などと言う。 	
作業準備	<ul style="list-style-type: none"> 検定で使う資機材を、保管場所から作業場所の近くへ移動する。 	
入室の挨拶※	<ul style="list-style-type: none"> 作業場所出入口にて作業場所に向かって入室の挨拶を行う。 入室の挨拶→「失礼します」などと言い、一礼して作業場所に入る。 	
清掃を行う	<ul style="list-style-type: none"> 本マニュアルに準じて作業を行う。 (平成 25 年度の県検定課題は 15～16 ページ参照) 	
点検	<ul style="list-style-type: none"> 指差しや目視などで、資機材の忘れ、ゴミの取り残しなどの点検を行う。<u>点検の際に声を出さないこと。</u> 	
退室の挨拶※	<ul style="list-style-type: none"> 作業場所出入口にて、作業場所に向かって退室の挨拶を行う。 退室の挨拶→「失礼しました」などと言い、一礼して作業場所から離れる。 	
資機材の片付け	<ul style="list-style-type: none"> 使用した資機材を保管場所に戻す。 	
終了の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 所定の位置に立ち、終了挨拶を行う。 終了の挨拶→「<u>終わりました」「終了しました</u>」などの意思表示を行う。 	

※窓清掃は、「入室の挨拶」「退室の挨拶」は行わない。

(1) 各賞の評価基準

- 金賞：清掃開始前、清掃、清掃終了後の全手順で、すべてが○の評価。
- 銀賞：清掃開始前、清掃、清掃終了後の全手順で、○が90%以上の評価。
- 銅賞：清掃開始前、清掃、清掃終了後の全手順で、○が90%未滿の評価。

(2) 審査員は受検者の様子を評価し、支援は行わずに見守る。

(3) 引率者も支援は行わない。(支援した場合、受検者が失格となることがある。)

(4) 挨拶・自己紹介等では、受検者の様子に応じ、手話・身振りやサイン、カードを提示するといった、代替・補助コミュニケーション手段を使用しても可とする。

★今後この評価表に「作業のスムーズさ」などの項目を加える場合があります。

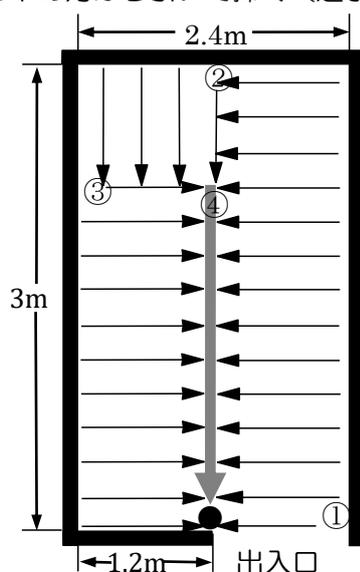
6 【参考】平成25年度千葉県特別支援学校 県清掃検定課題

◎一般的な注意事項

- 1 2種目とも制限時間10分とします。検定を開始して残り時間1分になったとき、「残り1分です。」と受検者に伝えます。
- 2 使用する資機材は、支給されたもの以外は使用できません。（ただし、検定申込時に申込用紙に記載し、主催者の許可を得た場合を除く。）
- 3 検定開始の指示は審査員が行います。
- 4 県検定では、あいさつ、報告、所要時間も審査の規準に加わります。詳細については、『千葉県特別支援学校 清掃検定マニュアル』[旧版](#)21ページをご覧ください。
- 5 作業服は、授業等で着ている作業に適した衣服で、ジャージも可です。
- 6 作業靴は、授業で履いている作業に適した上履きで、サンダルは不可です。
- 7 県検定の評価項目に入っていませんが、身だしなみを整えて参加してください。
(洗濯してあるきれいな作業服を着る、長ズボンをはく、シャツの裾を出さない、靴ひもをしっかりと結ぶ、靴のかかとを踏まない、ひげや爪を伸ばさないなど)

◎種目1：床清掃

- 1 作業場所は、縦3m×横2.4mの長方形とし、幅木により区画します。ほうきを幅木に当てないように、十分に練習してください。【下図参照】
- 2 床材質は木質とします（体育館の床で行います）。
- 3 自在ほうきによる床面の掃き作業です。
- 4 床のゴミは「水で湿らせたおがくず」とし、10g程度をまいたものとします。
- 5 幅木の上には壁があるものとして作業を行ってください。
- 6 進行の都合上、県検定では窓の開け閉めは行わず、また作業場所に椅子や机などの備品を一切置きません。
- 7 県検定では、握った手の下の方から引いて掃く（逆手掃き）も可とします。

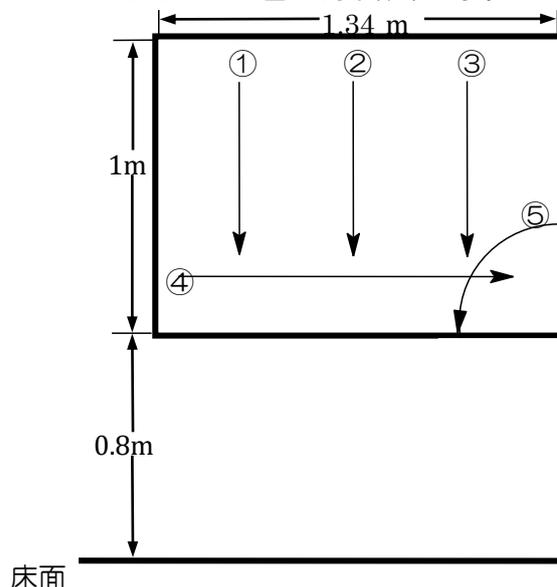


注：作業の進行①～④
自在ほうきを掃く回数
を表したものではありません。
●…ごみを集める位置

マニュアル第2版では、壁際をL字型に掃くことを追加しました。
本書8ページをご覧ください。

◎種目2：窓清掃

- 1 作業場所は、縦1m×横1.34mの長方形とします。また、床面からの高さは、一番低い辺で0.8m、一番高い辺で1.8mとします（高さ1.8mに手が届かない受検者は、11月25日までに清掃検定事務局に申し出てください）。【下図参照】
- 2 窓ガラスはフロート板ガラス（最も一般的な単層透明板ガラス）とします。
- 3 タオルとスクイジーによるガラス面の洗浄作業です。



注：スクイジーの作業手順
①～⑤
スクイジーを動かす回数
を表したものではありません。

◎資機材一覧表

1 検定会場に準備されているもの

(1) 種目1：床清掃 ※各受検者が選んで使用します。

品名	寸法又は規格	数量	備考
自在ぼうき	毛先幅30cm	1本	共通消耗品
自在ぼうき	毛先幅45cm	1本	
ワンタッチモップ柄	ワンタッチアルミ伸縮柄	1本	
ワンタッチ自在ぼうきヘッド	毛先幅45cm	1個	
文化ちり取り		1個	
片手ちり取り		1個	共通消耗品
毛がき		1本	

(2) 種目2：窓清掃

品名	寸法又は規格	数量	備考
スクイジー	ゴム幅45cm	1本	
バケツ	10リットル、寸胴型	1個	
タオル	無地、白色	2枚	

2 受検者が持参するもの

品名	寸法又は規格	数量	備考
作業着（上・下）	授業等で着ているもの	1着	ジャージ可
作業靴	授業で履いている上履き	1足	サンダル不可

※平成26年度以降の課題は変更する場合があります。（スクイジーは、ゴム幅35cmも検定会場に準備し、各受検者が選んで使用できるようにする見込みです。）

7 清掃作業する人のマナー

自分もまわりの人も気持ちよく働くために

● 清潔な身だしなみを心がけよう

- 髪を整え、ひげそり、歯磨き、洗顔をしましょう。
- シャツはズボンの中に入れてみましょう。
- 上着のファスナーは必要以上に開けません。
- 安全のため、靴のかかとを踏みません。
- 派手な靴下は履きません。
- 長い髪は後ろで束ね、さっぱりした髪型にしましょう。
- 爪を短くして、手を清潔にしておきましょう。
- 服は汚れたら洗濯し、いつも清潔なものを着ましょう。
- ハンカチをポケットに入れておきましょう。

● マナー

- 誰に対しても言葉遣いを丁寧にし、失礼のないようにしましょう。
- 挨拶・返事は、相手に聞こえるようはっきりと言いましょ。う。
- 自分勝手に作業を進めず、スタッフの指示に従いましょう。
- 困ったことや、わからないことはスタッフに聞きましょう。
- 清掃道具はいつも清潔にし、乱暴に扱いません。
- いつもニコニコして、楽しく働きましょう。

● 清掃を行う上で参考となる本を紹介します

『小学校清掃指導マニュアル』公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会 ※

『特別支援教育清掃マニュアル』公益社団法人 東京ビルメンテナンス協会 ※

『エル・チャレンジ清掃技能テキスト』大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合

『目で見るとビルクリーニングの基礎』岸正

『新版 ビルクリーニング科実技テキスト』一般財団法人 建築物管理訓練センター

『基本ビルクリーニング教本』金山英二

『清掃のスペシャリストを目指して』一般社団法人 関西環境開発センター

※はホームページから無料でダウンロードできます。

千葉県特別支援学校

清掃検定マニュアル第2版

編集 千葉県特別支援学校校長会
千葉県特別支援学校副校長・教頭会

発行日 平成26年3月31日

